



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国人学習者向け漢字教材の必要性について
Author(s)	和田, 衣世
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 6, 83-92
Issue Date	2002-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45630
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC006_007.pdf



中国人学習者向け漢字教材の必要性について

和田 衣世

[ABSTRACT] While many studies have investigated the teaching of kanji to non-kanji-area students, only a small number of studies have done so for kanji-area students such as Chinese. In addition, these latter studies have focused rather on the teaching of reading, rather than on writing. In fact, Chinese students often write Chinese-style characters instead of Japanese kanji. This paper reexamines the need for kanji learning materials for kanji-area students and introduces the notion of kanji materials focusing specifically on the difference between Japanese style and Chinese style characters.

1. はじめに

現在の日本語教育における漢字教育は、研究および教材という点から観察すると非漢字圏学習者対象のものが多く、漢字圏学習者対象のものはそれほど取りあげられていない。特に漢字の書き方の教育に関してはその傾向は著しい。これらのことから、漢字圏学習者に対する漢字教育が重要視されていないことがうかがわれる。しかし、現場を振り返ると、中国人学習者に代表される漢字圏学習者の漢字書字にはあきらかに問題点がある。それにも関わらず、そのための漢字教材はまだ不十分な状況である。本稿では、そのような現状から中国人学習者の漢字書字学習に必要な教材を考察し、教材案を提案する。

本稿ではまず漢字圏の学習者に対する漢字教育の先行研究を振り返り、つぎに漢字圏学習者、特に中国人学習者に対する漢字教育の現在の問題点を述べる。さらに調査によって実際に見られた中国人学習者の誤字データから、漢字教育の現状の問題点を、主に教材や関連図書の出版状況という点から検討する。そこから今後必要と思われる具体的な漢字教材案を提示する。なお、本稿では中国人学習者とは中国大陸出身で、中国語において簡体字¹⁾を使用している学習者を指す。

2. 先行研究

これまでの漢字教育に関する研究では、比較的、非漢字圏学習者を対象にしたものが多い。和田（1994）は漢字圏の中でも特に中国人学習者に対する漢字教育を取り上げ、字体・音訓・漢語（字義）三つの観点から問題点や指導法などを論じている。本稿に関わる字形の指導に関して言えば、和田（1994）は日中で字形の違う漢字を指導する場合、簡体字との差異を示すことによって学習者の注意を促すべきだと主張しているが、その差異を示す具体的な方法は述べられていない。坂根（1995）は漢字圏学習者の漢字の書字に対する指導、字形の許容などについて意見の交換の場が極めて少ないことを指摘している。林（2002）は台湾人日本語学習者の作文資料から字形の誤りを分析し、日本語の漢字と繁体字²⁾の相違の類型化を試みている。両字形の差異を体系化し、学習者に提示することによってその誤用を防ぐことができるというものである。また、漢字圏学習者に対する学習者の漢字教育のあり方として、チョ（1994）は韓国人学習者を対象として、日韓両国で使用されている漢字の差異をもっと意識した教育方法を講じるべきだと提案している。漢字の書字に関しては、韓国人学習者は本国の使用漢字である旧字体（繁体字）を書くおそれがあると指摘するだけにとどまっている。

以上のように、先行研究においては、漢字の字形に関し日中両漢字の差異に注目するべきであると示唆するものが多いが、いずれもどのように学習者に提示するかなどの具体的な方策は論じられていない。

3. 漢字圏学習者に対する漢字教育の問題点—書字教育の必要性—

漢字圏学習者に対する漢字教育の研究は非漢字圏学習者対象のものに比べ数が少ないが、その数少ない研究の中でも特に重点を置かれているのは読み方の教育や日中両漢字の字義の差異によっておこる誤用の研究であり、書き方の教育はあまり重要視されていない。

原土（1984）では漢字圏の学習者に対する漢字の指導法を提案している。しかし取りあげられているのは日本語の拍集合に基づく漢字の指導、漢字の多様な読みに気づかせる指導、音訓など、ほとんどが読み方に関する指導法であり、書き方に関してはほとんどふれていない。また、坂根（1995）は漢字圏学習者に対する書字教育に関する議論が少ないことを指摘しながらも、漢字圏学習者が得意とする書き方の指導は節約し、読み方の指導に

時間をかけることを提案している。

昨今は日本語ワープロソフトが多用されており、手書きの必要性が以前よりも低くなっている。そのために書字教育がなおざりにされているのかもしれない。しかし、漢字を自分で書くという活動は日本語ワープロが普及した時代でも日本語学習において必要なことである。

玉村(1993)はワープロやパソコンが普及した今、漢字の書字は「識別・判読でできればいい」という柔軟な姿勢が教師に求められる時代になったかもしれないと指摘しつつも、書くことと読むことは認識の働きとして深い結びつきを持っているので、やはり書字教育は重要だとしている。つまり、学習者は手書きという作業を重ねることによって、線の長短や点のある・なしなどの漢字のわずかな差異を認識するようになり、読む際の読み誤りも防ぐことができると考えられる。

また、正しい漢字を手書きするという活動は正しい字形を知って初めてできることであるが、正しい字形を知らなければ辞書で総画数索引や部首索引を使って検字する際に障害が生じる。すなわち書字教育を通して、正しい字形を認識し、辞書を活用する活動に結びつけることができるといえる。このように、書字教育はただ書く技能だけではなく、あらゆる学習活動においても効果が期待できるのである。

漢字の書字教育の必要性は漢字圏学習者、非漢字圏学習者を問わず言えることであり、読み方の教育と同様の配慮が必要である。実際に漢字圏学習者である中国人学習者の書く漢字には誤りが頻繁に見られる。中国人学習者の漢字の背景知識を期待して、書き方の教育を軽視してはいけないのである。

4. 調査

4.1 調査方法

では、中国人学習者の書く漢字には、どんな字形の誤りが見られるのだろうか。

札幌市内の日本語学校で学ぶ19歳から26歳の中国人就学生32人に全てひらがなで書かれた分かち書きの8つの文³⁾を、漢字を使って書き直すという作業をしてもらった。調査に協力してもらった就学生のレベルはだいたい初級～初中級、学習歴は渡日後約4か月、渡日前の学習歴はなし～約二年とさまざまである。調査に使用した8つの文は、文の意味をわかりやす

くし、漢字の書字に集中させるため、当該日本語学校において既習の文法事項を含み、表記は分かち書きで提示した。また、先行研究において日中両漢字の差異を意識するべきとの指摘があったことから、文中に使用される漢字語彙は日本の漢字と簡体字において差異のあるものを含むという意図をもって作成した。文中のどの語を漢字で書くかは学習者に自由に選ばせた。なお、この日本語学校では漢字の授業で『1日15分の漢字練習』をもとに、独自に編集したものを教材として使用している。

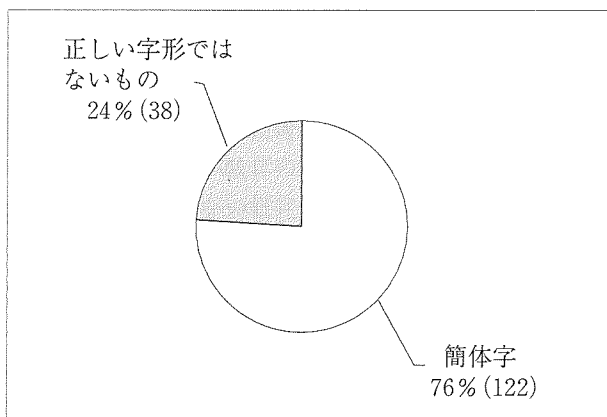
4.2 調査結果

学生32人が書いた8つの文に出現した漢字数は合計1956字だった。漢字選択の誤りも含め、漢字は241字であった。うち簡体字で書いたものが122字⁴⁾、簡体字ではないが正しい字形ではないものが38字⁵⁾見られた。また、誤用が81字⁶⁾見られ、さらにその中で簡体字の影響が現れたものが18字、その他の誤用が63字あった。なお、以上の数字はすべてのべ数である。

今回の調査の結果、誤用を除く漢字の字形の誤りは約8%を占めたが、その中でも、簡体字の占める割合が約76%と多数を占めている。

図1 字形の誤りの内わけ

* 字形の誤りの総数160 (誤用を除く)、() 内は数



この調査の結果から、中国人学習者の漢字の誤りに簡体字の影響がかなり見られるということがわかる。特記すべきことは、漢字で書く語彙を自

由に選ばせたにもかかわらず、調査に協力した学生の中ですべての漢字を誤ることなく書いた学生は一人もいなかった、という点である。このことから、漢字の字形に関し、基礎知識がある中国人学習者といえども、漢字の書字教育の必要があると言えよう。先に述べた教育する側の漢字の書字教育に対する意識の希薄さもまた、字形の誤りの多発につながっているのではないだろうか。

5. 漢字教材の現状

以上、調査によって中国人学習者の漢字書字の問題点があきらかになった。つぎに現状の漢字教材がその問題点に対応しているかどうかを検討する。

第一に、漢字教材の現状の問題点は、その多くが非漢字圏学習者向けの漢字教材であるという点である。例えば、『みんなの日本語』『新日本語の基礎』の文法解説書には中国語版と韓国語版がそれぞれ出版されているが、漢字学習用の副教材である『みんなの日本語初級Ⅰ漢字』『新日本語の基礎 漢字練習帳Ⅰ・Ⅱ』に関しては中国語版と韓国語版は出版されていない。出版元によると、それらの漢字教材は初めて漢字と出会う非漢字圏学習者を対象として出版されたものであり、今後も同様の漢字教材を漢字圏学習者向けに出版する予定はないとのことである。このような状況から、出版側にも漢字圏学習者対象の漢字教育を重要視していない姿勢が見られる。

つぎに、凡人社日本語教材リスト（2001～2002）にあった漢字学習教材の中で、媒介語として中国語を使用している主なもの取りあげ、調査に見られた書字の問題点に対応しているかどうかを検討する。媒介語を目安としたのは、媒介語が中国語であることによって、あきらかに中国語母語話者を対象としていることがわかるからである。

そのひとつに『1日15分の漢字練習』がある。この教材は、使い方の説明が英語・韓国語とともに中国語（簡体字・繁体字）で書かれており、提出されている語彙や例文も中国語訳がつけられている。その他の部分は、特に書字学習という点で中国人学習者を意識しているところはない。

参考図書としては、『中国人のための読み方ハンドブック』がある。これは中国語の発音記号であるピンインを用いて日本語の漢字の読み方と意味が検索できるというものだが、タイトルの通り読み方の提示にのみ焦点

が置かれている。日中両漢字が提示されているものの、日本語の漢字の書き順が説明されておらず、これで書き方を学ぶには不十分である。

また、この日本語教材リストにはなかったが、インターネットでの検索の結果、あきらかに中国人学習者向けであると思われる漢字教材として中国残留孤児援護基金出版部発行の『中国の漢字と日本の漢字』があることがわかった。これは簡体字と日本の漢字の中で異なるものだけを取り上げた教材で、常用漢字の中から510の漢字が選ばれている。前書きによると「中国の簡体字と日本の漢字を対応させ、簡体字から見てどの部分が変化しているかによって分類、編集」とあり、このことから主に字形の差異に気づかせることに重点を置いた教材であることがわかる。しかし、日本の漢字としての書き順の提示もなく、両漢字の差異が小さい漢字などは、どの部分が違うのかという指摘が明確にされておらず、差異がわかりにくい。

以上のように、漢字圏学習者を対象にした漢字教材を書字教育という点から観察した場合、現状ではまだ不十分であるといえる。中国人学習者に関して言えば、確かに日中に共通する字形の漢字も多く、非漢字圏学習者に比べ有利な点が多い。しかし、調査の結果に見られるように、中国人学習者の書字には簡体字の強い影響という問題がある。この問題を解決する教材が今後必要であろう。

6. 教材案

前述の調査の結果から、漢字の書字において簡体字に関わる誤りを念頭においた教材が必要だと考えられる。以下、教材案をあげる。

(1) はっきりと弁別させるため、日本の漢字と簡体字を並べて提示する。

酒井(1994)は、誤字・誤用例をもとにした記憶法を「弁別法」と呼び、授業のアクティビティとして誤字のまちがい捜しのゲームを試みたところ、初出に誤字を見せることはむしろ有効性があつたと報告している。このことから考えると、日本の漢字と簡体字を二つならべて提示し、差異を指摘することによって有効性が期待できる。

具体例としては、日本語の漢字と中国語の漢字を比較対照させる。字形が全体的に異なる場合はそのまま並べる(例1)。わずかに字形が異なる場合は部分に○や矢印などをつける(例2)。誤字を強く印象づけることを避けるため、簡体字をやや小さめにする。

例 1) 日本の漢字 簡体字

飛 飞

例 2) 日本の漢字 簡体字

單 单

(2) 構成要素ごとに比較対照し、記憶の負担を軽くする。

へん、かんむり、あし、かまえなどに適用する。つくりに関しても同様 (例 3)。

例 3) 彳 → 糸 袁 → 元

なお、例外に関してもできるだけ提示する。

例えば、袁→元のルールは「遠」には対応するが(「遠」の簡体字は「远」、同じつくりを持つ「猿」にいたっては対応できない。(「猿」の簡体字は「猴」)。このような例外を提示する。

7. おわりに

以上、現在の中国人学習者に対する漢字教育と漢字学習における問題点を述べてきた。調査に見られたように、字形が共通するものが多いとはいえ、日本語の漢字を正しく書けない中国人学習者は多い。このような現状を見ても、これまでさほど重要視されていなかった中国人学習者の漢字教育に対する姿勢を今後改める必要があるだろう。使用教材という点から考えると、現在の出版状況において大多数を占める非漢字圏学習者と同じ漢字教材を使うには非効率的である。中国人学習者の有利な点や困難な点を考慮しつつ、読み方・書き方が効率よく学習できる漢字教材が今後必要なのではないだろうか。そのために本稿では漢字の書字教材の一例を提案した。今後の研究課題としては、中国人学習者が正しく、効率的に学習できる漢字教材とは何かを引き続き考察し、教材を開発して、実際の漢字教育に役立てていきたい。

注：

- 1) 簡体字とは、現在中国大陆やシンガポールで使われている簡略化された漢字のことを指す。
- 2) 繁体字とは、現在台湾、香港、韓国などで使われている漢字のことを指す。旧字体と同じ。
- 3) 調査に使った文は以下の通り。

問題 つぎのひらがなの文を、漢字を使って書いてください。

- ① せんしゅうの やすみのひ、 えいがをみてから こうえんをさんぽしました。
- ② まいにち としょかんで にほんごを べんきょうします。
- ③ かんたんな にほんごの ほんを かしてください。
- ④ じゅうしょうが かわりましたから、りょうしんに てがみで れんらくしました。
- ⑤ つくえの うえに くろいペンが 1 ぽんと、ほんが 3 さつおいてあります。
- ⑥ おおさかへ あそびにいったとき、たくさん しゃしんを 取りました。
- ⑦ ひこうきが しゅっぱつするじかんを おしえてください。
- ⑧ なつやすみに くには かえれなくて、とても ざんねんです。

- 4) 簡体字を書いた誤りは以下の通りである。人数の多いものから順に記す。* () の数字は人数

冊→册(16)、着→着(15)、歩→步(10)、阪→阪(10)、真→真(10)
画→画(7)、簡→简(7)、残→残(7)、所→所(6)、写→写(6)、
黒→黑(5)、置→置(5)、毎→每(3)、館→馆(3)、図→图(2)、
単→单(2)、撮→摄(2)、強→强(1)、変→变(1)、絡→络(1)、
遊→游(1)、時→时(1)、飛→飞(1)

- 5) 正しい字形ではないもの。人数の多いものから順に記す。

機→(15) 機 機 機 機 機 機 機 機 機 機 機 機 機 機 機
図→(4) 图 图 图 图 冊→(3) 册 册 册 飛→(3) 飛 飛 飛
館→(2) 館 館 両→(2) 兩 兩 変→(2) 变 变
単→(1) 单 置→(1) 置 真→(1) 真 紙→(1) 紙
連→(1) 連 到→(1) 到 夏→(1) 夏

- 6) 誤用は以下の通りである。出現順に記す。*は誤用中の簡体字

先週→前週(2)、研究(1)、研修(1) 休み→休息(2)、休み(1)
 映画→英語(2) 見て→見て(1) 本→書(1)
 貸して→借して(8)、書して(1)、* 返して(1)
 住所→就学(2)、宿舎(1)、住址(1)、辞書(1)
 変りました→* 換 変わりました(2)、終ました(1)、結束ました(1)
 両親→料金(1)、* 旅行(1)、双親(1) 連絡→聯絡(4)、練絡(1)
 机→* 桌(3) ペン→筆(2)、笔(2)
 3冊→3札(1)、三歳(1)、* 3 个(1) 置いて→買って(1)、直いて(1)
 大阪→大坂(1)、* 大板(1) 撮りました→取りました(2)、鳥ました(1)
 飛行機→* 空港(2)、飛行機(1) 到着→到達(1) 教えて→返えて(1)
 夏休み→夏休日(1)、暑休(1)、休夏み(1) 国→肉(1)
 帰れなくて→返れなくて(1)、* 返れなくて(1)
 残念→残害(1)、残業(1)

参考文献：

- 川口義一・加納千恵子・酒井順子 (1995) 『日本語教師のための漢字指導
 アイデアブック』創拓社
 酒井順子 (1994) 「認知科学からみた漢字教育へのアプローチ—学生の自
 立学習を目指した四段階の「記憶法」による実証的漢字指導の試み—」
 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第20号 pp43-61
 坂根慶子 (1995) 「漢字の書写に関する評価について—漢字圏学習者の場
 合—」『東海大学紀要留学生教育センター』第15号 pp13-22
 チョ・ヒチョル (1994) 「漢字系学習者のための漢字教育のあり方—韓国
 人の日本語学習者を中心に—」『世界の日本語教育』第4号
 pp61-73
 玉村文郎 (1993) 「日本語における漢字—その特質と教育—」『日本語教育』
 80号 p1-13
 原土 洋 (1989) 「漢字の指導法 (漢字系)」『講座日本語と日本語教育第
 9巻 日本語の文字・表記 (下)』pp265-289 明治書院
 林 玉恵 (2002) 「字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策—
 台湾人日本語学習者を中心に—」『日本語教育』112号 pp45-54
 和田知子 (1994) 「中国人学習者に対する漢字教育—字体・音訓・漢語の
 問題点と指導法—」『熊本女子大学国文研究』39号 pp45-61

参考教材：

新矢麻紀子ほか（2000）『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字英語版』スリーエーネットワーク

大越美恵子ほか（1997）『中国人のための漢字の読み方ハンドブック』スリーエーネットワーク

鶴尾能子ほか（1992）『新日本語の基礎 漢字練習帳Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク

KCPインターナショナル語学研修員（2000）『1日15分の漢字練習上・下』アルク

中国帰国者定着促進センター（1991）『中国の漢字と日本の漢字』（財）中国残留孤児援護基金

その他

凡人社 日本語教材リストNo31（2001～2002）